

不動寺だより

瑞宝山 不動寺
平成26年11月
TEL 75-4862

平成26年4月からの不動寺行事

●平成26年4月26日 土寺小屋と護摩焚き

土寺小屋と護摩焚きでした。皆さんの家内安全、交通安全、病気快癒を祈念しました。



土寺小屋では「世の中捨てたもんじゃない」という話の後、副住職手づくりの五色大納言入り米粉蒸しパンの御弥津(おやつ)をいただき、後半はお写経でした。

●平成26年5月13日 パーキンソン病友の会講演

全国パーキンソン病友の会県支部総会で桂枝曾丸さんの落語と住職の講演とのコラボでした。

「笑いは最上の免疫薬」ともいわれています。パーキンソン病患者は「マスクフェイス」ともいわれ、なかなか笑い顔を見せることが出来ません。よく患者から「私は怒ってるんじゃないやありませんよ。笑えないんですよ」という話を聞きます。さらに加えて日頃、療養加療のため、生で落語などを聞くこともほとんど無く、「笑うこと」に飢えているのが難病患者なんです。

枝曾丸さんは、そんな患者を和歌山弁落語と古典落語の二題、汗びっしょりの熱演で腹の底から笑わせてくれました。私は「人生マンダラ」というお話で枝曾丸さんの前座を汚した次第です。

●平成26年5月24日 土寺小屋

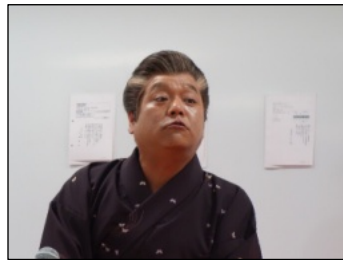
御弥津は豆乳プリンの黒蜜かけでした。

講話はテロが続く新疆ウイグル自治区、ウルムチの話。

私が出会ったウイグルの人たちは、おおらかで笑顔が絶えなかった。

あのオアシスの人たちがあんな行動を起こすとは思えない。イスラム原理主義者の強硬派分子ではないのか？

近年、驚くほど大都市に変貌し、生活は豊かになったかもしれないけど、果たして心も豊かになったのだろうか……。



それにしても、漢民族の自治支配が強権的になればなるほどエスカレートしていくのが、危惧される。

●平成26年5月28日 護摩焚き

生きとし生けるものの安寧を祈願しました。

●平成26年6月27日 紀の川市教師塾住職講演



紀の川市の学校教師の学びの場「紀の川市教師塾」で講演。

いつも50名ぐらいのところ、ところが120名を超えたため、急きょ会場を粉河ふるさとセンターに変更して講演です。

話のテーマは子どものころ私が先生から言われた「相手の立場に立てる人に…」と「人という字は支え合っている。だから感謝が大事」????

本当に相手の立場に立てるのか？、本当に人という字は支え合っているのか？

いつもの「人生マンダラ」です。

●平成26年6月28日 土寺小屋と護摩焚き

梅雨空のうっとうしいなか、護摩焚き法要と土寺小屋でした。

きょう貝塚市から若い男性がホームページを見たと言って来てくれました。

護摩のあと、法話は

「都議会で暴言を吐いたような人を見分ける方法は、選挙運動や演説などで『みんなのため、人のため』と云ってる人はだめ、人の為と書いて『偽』(いつわる)と読む」というような話。御弥津は手作り水ようかんでした。



●平成26年7月26日 土寺小屋と護摩焚き



熱い！暑い！護摩を焚いたあとは冷房の効



いた庫裡でお写経とご詠歌。御弥津は桃入りゼリーでした。

(ウラに続く)

(表ページから続く)

● **平成26年8月20日 お盆が終わり住職のぼやき**
お盆が終わりました。この田舎寺のお布施の中には、いろいろな苦勞の跡が見えます。

その1.



このときのために古い百円紙幣を無記名で包んで、いかにも一千円札を入れているかのように工夫されています。これが数軒ありました。トホッ…

その2.



100円硬貨を並べてゼロハンテープで貼り付けています。これもお札を折りたたんでいるかのようにしているのでしょうか。これは数え切れないほどあります。トホッ…

その3.



500円硬貨を厚紙台紙に貼り、いかにも一千円札を三つ折りしているように思わせようと、ご苦勞の跡がうかがわれます。これも数件ありました。トホッ…

● **平成26年8月28日 護摩焚き**

護摩焚きが終わって本堂を出て境内の槇の木を見ると、カタツムリが実を食べてました。



私も濃い紫色の熟れた実を一粒食べると、ふと、子どものころを思い出しました…。

今の子どもたちは、この槇の実を食べられることを知っているのでしょうか？

● **平成26年9月28日 土寺小屋と護摩焚き**

9月末とはいえ暑い熱い護摩でした。家内安全や交通安全などの祈願が書かれた皆さんの護摩札を焚き上げました。



土寺でのお話は五穀や水を断ち、まるで弘法大師のように即身成仏を自でいった叔母の話です。

97歳になっても周囲を笑わせ、周りの人々に限りない感謝の言葉を残し、食べることの喜びと、命につながる食事は残すことを強く戒め、それらのことを重度のリウマチを患

う娘に言い伝え、自らふくよかに老いていった叔母が、はからずも娘婿が脳出血で重度障害者となりどん底に落ち込んだ心で、同じ施設に入所することに…。

娘婿は義母の部屋に通い、やがて義母と話す中で、「前向きに生きる」と変わりだした。

しかし娘婿の施設費用が高額となり、転院せざるを得なくなってからこの施設の最高齢者となった叔母は「私は一生懸命生きてきた。もう私の役目はなくなった」と食べ物を口に近づけても、口を1文字に固く閉じて、スプーン一杯の水も口にしなくなった。

このとき強く命の閉じ際を悟ったのだろうか？

呼び出された娘に施設は「点滴とか高栄養の経口治療などさせてもらいたい」と言われたが、叔母は「私はこれでいいの」とすべてのことを拒否して、10日後に静かに息を引き取った。

今こんな人がいるのだろうか…。

私は弘法大師の即身成仏を思った。

すべてのことを伝え置き、自ら五穀を断って入定した弘法大師空海。

まさに叔母の最期は「即身成仏」そのもののように思った。豊かな智恵で周囲を明るくし、多くの感謝を語り、そのことを遺言のごとく言い伝えて逝った叔母に私は「豊覚明恵信女」の戒名を贈った。

この日の御弥津は「あん麩」でした。



● **平成26年10月25日 土寺小屋と護摩焚き**

今日は土寺小屋で護摩も焚きました。

できたての「護摩の灰」。

「護摩の灰」とは、うさん臭い嘘つきみたいな意味がありますが、これは昔、「弘法大師が護摩を焚いたあとの御利益高い灰で、薬効高いものだ」と嘘をついて売り歩いた僧がいたことからそう呼ばれるようになったのです。

でもこれは正真正銘、できたての護摩の灰です。

みんなこの煙を膝や頭などにあて、御利益を願うんです。

土寺の御弥津（おやつ）は、副住職手製のサツマイモプリンでした。

